

10月のインボイス制度の導入は、フリーランスにとって厳しい。私の知人の美容師は今業務委託契約している店舗からインボイス登録業者になるよう言われているが、収入が減るため解約して自分の店を持つか悩んでいる。その話を聞いて小商い可能な賃貸住宅の需要を感じた。(永井)

入居者の各種保証を手がける日本賃貸保証では、家賃滞納者との面談を通じて生活の立て直しを支援している。面談担当者は「抱えている問題に耳を傾けることで、状況改

善に向けて背中を押せることもある」と話す。単身世帯が増加する中、相談相手を持っていない人も増えるだろう。その人に寄り添うことは、デジタールにはできない。(遠藤)

運送会社の配達員が、再配達を嫌い、宅

雑記帳



配ボックスを自分用に確保。実質的にはスペースが残っているにもかかわらず、荷物を預けられない「開かずの宅配ボックス」があるという。宅配ボックスと置き配を並行し

て使うことが、運送事業者側の働き方改革になり、入居者も好きなタイミングで荷物を受け取れるようになるだろう。(河内)

新社会人が入社する季節がやってきた。期待と不安が入り混じりながらも意欲を持って働き始める新人の受け入れ体制は整っているのだろうか。「今どきの若い者は」という言葉があるが、まずは受け入れる側が歩み寄る姿勢が

大切だと思う。新人だった頃の襟を正して仕事に励みたい。(高橋)

賃貸住宅を林業の視点で見るとき、森と街をつなげる役割を担うという。新潟市では、ある建築事務所が、地元の木材を使用した賃貸住宅を企画している。特に新潟市のような中山間地域は、地元の山の資源を近くの街で活用することで流通コストを抑えたものづくりが可能だ。地方発信の省エネ木造住宅に注目したい。(齋藤)